

御手洗池の周辺は、岐阜城の藩主の奥方を世話する奥女中たちの生活の場所であったと考えられている。1600年8月岐阜城は日本を二分した関ヶ原の戦いで、西軍に呼応した岐阜城藩主織田信長の孫の織田秀信（1580-1605）は福島正則（1561-1624）、池田輝政（1565-1613）に率いられた東軍側の攻撃を受けた。当時の池は現在よりはるかに大きかった。城が包囲されると、奥女中たちの多くは敵に捕らえられるよりも、御手洗池に投身自殺することを選択したと伝えられている。